

氏名(本籍)	野 ^の 澤 ^{ざわ} 純 ^{じゆん} 子 ^こ (東京都)		
学位の種類	博士(ヒューマン・ケア科学)		
学位記番号	博甲第4376号		
学位授与年月日	平成19年3月23日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	巡回相談における「特別ニーズ」保育への保育士参加型による専門的支援の提供方法		
主査	筑波大学教授	教育学博士	徳田克己
副査	筑波大学教授	Ph. D.	石隈利紀
副査	筑波大学教授	教育学博士	園山繁樹
副査	筑波大学助教授	博士(社会福祉学)	結城俊哉

論文の内容の要旨

(目的)

巡回相談を活用した「特別ニーズ」保育への専門的支援に関し、実施内容とニーズ、また巡回相談における相談内容と支援方法の実態に基づき、支援の提供側と利用側との協働の視点から専門的支援の在り方と支援に必要な要素を明らかにし、参加者関与の視点から支援の過程で使用するツールを含む「特別ニーズ」保育への専門的支援の提供方法を開発する。

(対象と方法)

障害児や特別な配慮を必要とする子どもを「特別ニーズ」のある子ども、その保育を「特別ニーズ」保育と定義した上で3つの研究課題を設定した。

1. 巡回相談による「特別ニーズ」保育への支援の実態把握と有効な支援要素の抽出

1) 巡回相談の利用実態と巡回相談の機能を明確化するために、千葉県の巡回相談を利用する公立保育所保育士495人、巡回相談員53人を対象に利用実態を問う質問紙調査と、保育士15人、巡回相談員6人を対象に事例を収集する面接調査を実施した。

2) 巡回相談による支援方略を類型化し、支援の構成要素を明らかにするために、特定地域の支援事例(129事例)を対象に、相談内容を子どもの発達のタイプ、年齢、支援内容から分析し、状況要因別に分類した。さらに相談員の支援行動を相談内容別に課題分析し類型化した。

2. 保育士参加型による「特別ニーズ」保育への支援提供方法の構築

支援実態に基づき支援要素を構造化し、保育士参加型調査である利便性の調査とユーザビリティテストを通して支援ツールの作成を行い、ツールを使用した支援提供方法を呈示した。

3. 巡回相談における「特別ニーズ」保育へのツールを使用した専門的支援の効果

行動問題対応とスキル習得指導に関する13事例を対象に支援を実施し、子どもの行動変化、保育士の行動変化、および支援の事後評価からツールを使用した専門的支援の効果を検証した。

(結果)

1. 1) 自治体による派遣形態において回数増加の希望が多く、専門的支援の利用は、保育経験の長い保育士や正規職員に有効利用があり、利用側の格差が確かめられた。一方、巡回相談員の機能は1つの事例の中で複数の機能を果たし、特に保育実践への支援と力量形成の機能が多かった。

2) 相談前の保育士の行動に対する支援方略には、保育場面の状況に6方略、保育所の状況に2方略、保育所を取り巻く状況に2方略あり、相談員その他機関連携行動は9通りあることが確かめられた。

今後の巡回相談のあり方として、専門的支援利用に関する保育所体制の整備、巡回相談員による保育士力量形成支援の必要性、回数増加等の巡回相談体制充実の必要性、地域支援ネットワークの充実、保育上特別なニーズのある全ての子どもと保護者への支援の重要性を提言した。

3. 「特別ニーズ」保育への想定される支援を保育士への支援を中心に整理した結果、保育士自己学習支援、相談員との連携促進、他機関連携支援、保護者支援の4つの領域が明らかになった。支援を実現するための補助手段として提案したツールは、保育士から高いニーズのあった「特別なニーズのある子どもの理解と対応」を中心的な内容として作成した。支援提供の方法は、実態把握、計画立案、実践、事後評価の順に行い、具体的な支援の流れを時系列に図示した。

4. ツールを利用した支援の効果が明らかとなった。子どもの行動では、適切行動の増加と不適切行動の減少、保育士の子どもへの適切な行動の増加と保育士による新しい対応の提案と実施があった。事後の支援の評価では肯定的評価を得た。特に力量形成、他の保育士と協力・連携に関する評価が高かった。1年後の調査では、力量形成については高い評価であったが、その他の項目については新年度も継続して巡回相談を利用する保育士の方が、利用しない保育士よりも高い評価をした。

(考察)

巡回相談による保育所への専門的支援を研究する際には、支援提供方法の開発段階から実態調査による地域ニーズとの摺り合わせを行い、支援ツールの利便性の調査やユーザビリティテストといった保育士参加型の手続きにより協働を促すことが重要である。また実践における「特別ニーズ」保育へのツールを利用した支援手続きは、保育実践の中での保育士の気づきを促し、保育士が子どもの行動を捉え直すことや、状況に合わせた新しい対応方法を考え出す点で保育士の力量形成に貢献し、さらに保育士と相談員という異職種の専門家が1つの目標に向かって互いに学び合う上で重要である。

審査の結果の要旨

本研究は、地域社会への支援としての巡回相談による「特別ニーズ」保育への専門的支援に関し、協働の視点からの実態把握と支援提供方法の開発を行った点や、実践における支援計画立案に際しての保育士と巡回相談員の話し合いの方法、保育士の主体的判断の生成、行動観察、目標設定、記録、評価の方法に関して1つのモデルを示した点で高く評価される。

よって、著者は博士（ヒューマン・ケア科学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。